

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)	◎	家電量販店（店長）	・前回の特別定額給付金のおきほど特需にはならないが、今回も給付金効果が間違いなくある。ただ、飽くまで一時的なものであり、数か月すれば落ち着いていく。
	◎	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・前年同時期は、人気アニメーション作品により、映画館を始め全館的に関連商材が高稼働しており、コロナ禍とは思えないほど売上也かなり上がっている。また、今年も明るい材料が多く、周辺施設でも集客イベントが開催され、当ショッピングセンターでも徐々に販売促進を解禁している。初売りにかけるテナントの意気込みも強く、新装開店した中核となるテナントへの期待値から、クリスマス商戦はこれまでの反動で盛り上がっていくと予想している。
	◎	一般レストラン（経営者）	・今後、新型コロナウイルスの第6波が心配されるが、このまま落ち着いた状態が続けば景気が良くなる。さらに、国や地方自治体の実施するGo To Travelキャンペーン等の施策で景気回復を加速させていきたい。
	◎	一般レストラン（スタッフ）	・政府が様々な政策を打ち出し、全体的な景気が上向きになる。
	◎	競馬場（職員）	・経済活動が少しずつ再開している。
	○	商店街（代表者）	・年末に向けて繁忙期に入るが、新型コロナウイルスの落ち着きとともに景気も上向きになる。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの第6波がなければ、年末商戦に向けて、更に来街者数の増加が見込める。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減しており、第6波が拡大しない限りはこのまま状況は好転していく。
	○	商店街（代表者）	・購買意欲の減少は続いていく。しかし、インターネット販売をしている店や、これからインターネット販売をする余地がある店は、少し景気が良くなっていく。
	○	商店街（代表者）	・コロナ禍では、買い控えや外出自粛傾向があったが、新規感染者数が減少することで安心感が出ている。外出する機会が増加すれば、それに伴って購買意欲も上がってくる。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・正月商戦が始まり、養殖物の価格が上昇し懸念している。しかし、今年は前年と異なり、里帰りをする人が多いため、若干期待できる。年末で売上が伸びなければ、廃業する店も出てくると予想されるため、状況は厳しい。
	○	百貨店（企画担当）	・年末年始は例年どおりに戻ることが期待される。前年は自粛傾向にあった福袋やセールを、従来のような状況に近づけ、また、例年よりも寒いという予測もあり、冬物商材が確保できればよい要素となる。給付金もある程度の効果が出るので、今後の景気は徐々に回復していく。
	○	百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者が出なくなったことにより、来客数が伸びており、婦人衣料を中心に客の購買意欲が高まっている。
	○	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスも終息しつつあり、来客数の増加に比例して景気が良くなっていく。
	○	スーパー（店長）	・経済対策としての政府の施策による効果が徐々に現れる。しかし、年末年始後の新型コロナウイルス新規感染者数の状況によっては、景気動向の変動が懸念される。
	○	スーパー（企画担当）	・年末の予約状況が好調であり、この冬が低気温予想であることが追い風となり、食品や衣料品共に売上が伸長する。
	○	コンビニ（経営者）	・このまま緊急事態宣言が発出されなければ、少しずつ以前の状況に戻るが、確かな手応えは感じておらず、希望的観測である。
	○	コンビニ（経営者）	・通常の冬のコンビニエンズストア利用状況に加え、購買品目や客層も少しずつ変化していくと考えている。
○	コンビニ（経営者）	・催事やイベントの増加と企業の在宅勤務から出社へ一定数戻ってくることで、コンビニエンズストアの利用客の増加が見込める。	
○	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの各種規制の柔軟化とともに、購買意欲が戻ることを期待している。	

○	コンビニ（店長）	・やや良くなると期待しているが、インフルエンザと新型コロナウイルスの脅威は、まだまだ油断ができない状況である。
○	衣料品専門店（店長）	・時期的な要素もあるが、客が少し動き始めている。近くの観光地でも人の動きが多くなっており、この状況が継続することを期待している。
○	衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、このまま終息に向かえば、景気も良くなる。
○	家電量販店（従業員）	・平均購入点数が前年は1.96点、今年は2.01点と前年よりも増加しており、この状況が今後も続くことが見込まれる。
○	家電量販店（従業員）	・寒い季節となり、暖房器具の需要が増える。
○	乗用車販売店（従業員）	・初売り商戦に期待ができる。
○	乗用車販売店（総務担当）	・これから徐々にメーカーの生産が回復してくる。年明けから年間最大の需要期を迎え、新車の配給さえあれば経営状況は改善する。
○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・12月はお歳暮シーズンであり、業界の売上全体の底が上がる。当店も12月が繁忙期となるため、売上は増加する。
○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・新型コロナウイルスの感染者数次第ではあるが、現状をどれだけ維持できるかによる。
○	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新規感染者数の抑制が継続される前提ではあるが、年末年始で需要量が増えるとともに販売量が増え、飲食業界にも活気が戻ってくる。
○	都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数次第であるが、先行きは明るい。
○	旅行代理店（職員）	・1月下旬にGo To Travelキャンペーンの再開が予定されているため、景気がやや回復してくる。
○	タクシー運転手	・現状が続くのであれば、観光客も増加しており、より一層の景気回復が見込める。
○	タクシー運転手	・現状が続けば、年末に向けて人の動きが活発になっていく。しかし、第6波の時期が不透明であるため、懸念材料になっている。
○	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、人の動きも活発化していく。
○	通信会社（企画担当）	・官公庁では新型コロナウイルスの感染が落ち着く前提での予算の動きが活発化し、関係事業の引き合いが多くなっている。
○	ゴルフ場（従業員）	・3か月先はGo To Travelキャンペーンが始まっており、県外客の増加が見込まれる。
○	美容室（経営者）	・年末年始が控えており、景気は上がってくる。美容業界も年末年始は少しずつ景気が回復する。新商品も出てくるため、売上に期待している。
○	美容室（店長）	・新型コロナウイルス第6波の不安はあるものの、少しずつ来客数が増え、売上もやや良くなっていく。
○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先が輸出が多い企業のため、円安傾向は好ましい。また、翌年度の受注状況は好調であることから、この先好転することを期待している。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・3回目のワクチン接種が年明けから開始される可能性があり、安心感の向上と利用につながることに期待している。
○	住宅販売会社（従業員）	・今回、閣議決定した令和3年度の補正予算案に、住宅関連の支援も盛り込まれており、今後は子育て世帯や若年夫婦世帯の住宅取得も増えてくる。
○	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの対策により、今まで外出を控えていた人が、観光や飲食、買物等に出掛けており景気は良くなる。一方、懸念材料は原油価格の高騰、半導体の不足等の原材料関連であるが、消費にそこまで影響はなく、街の景気は良くなっていく。
□	商店街（代表者）	・最近テレビでは、様々な商品の値上げが報道されており、客の財布のひもは固くなり、買い控えが発生することを懸念している。

<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・現状より売上が悪くなりようがないほど、非常に厳しい状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・この時期は年賀状印刷が増える程度で、その他は売上が上昇する要因はない。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・食品以外の物販は消費の回復が見込めず、変わらず低迷が続く。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔生花〕（経営者）	・正月が終わると大きいイベントはないため、次は春先の動きで変化があると考えている。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・この先、通常であれば1年を通して一番売上が伸びる時期である。新型コロナウイルス新変異株が日本に入らないことを願いたい。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されるが、買物よりも、旅行や食事などに対する支出の方が増えていく。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルス第6波への懸念や治療薬の進捗等、先行きの不透明さが依然大きい。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少やお歳暮ギフトセンター開設により、年末商戦で来客数の回復が見込める。県内のサテライトショップやギフトショップ、通信販売、インターネット受注は依然好調である。また、ギフト、自家需要や嗜好性の高い舶来雑貨、時計、リビング用品、県内旅行も堅調で、自家需要中心の購買は継続している。しかし、月末の新型コロナウイルス新変異株報道により、県内外の旅行や帰省、来店抑制が懸念される。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経営企画担当）	・新型コロナウイルス発生前の7割前後の水準であった来客数も、緊急事態宣言が解除された後は8割強の水準まで回復しており、売上も上昇基調となっている。しかし、新型コロナウイルス新変異株の発生による商環境悪化の危惧があり、現状以上に回復はしない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（業務担当）	・コロナ禍の生活も2年目を迎え、この状況下での客の生活リズムができていく。新規感染者数の増減や、緊急事態宣言発出に関係なく、自粛リズムはしばらく大きく変化することはない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いていけば、外食やデリバリー、大型商業施設へと消費行動が移行する。また、ディスカウント店等の業態間の価格競争が一段と激しくなると予想される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・都市部と郊外でのバランスにより、大きな変化はない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・今の状況からは、今後良くなる材料はない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・政府主導の経済対策も大きな影響が見込めない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	・新型コロナウイルス新変異株が出ており、気温が下がるとまん延しやすい。また、客は買い控えをしており、景気が良くなる材料はない。外出できるようになれば少し景気も良くなる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・社会的な半導体不足や海外から製品を運ぶためのコンテナ不足により、プリンタや電話機、F a x が全くない状態である。売りたいものが売れず非常に困っている。また、パソコンは多くの在庫があり、前年のリモートの普及によって、既に購入されているため売れていないのが現状である。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新型車種が出てくる予定であるが、生産状況に改善が見込めず、現状維持で進んでいく。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルスの影響で、当分景気の回復はしない。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	・ワクチン接種やマスク着用等によって日本では新規感染者数が減少しているが、新型コロナウイルス新変異株の発生や隣国等では新規感染者数の増加がみられている。外国からの入国制限緩和が景気回復の妨げになることを危惧している。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営者）	・当県は新規感染者数がない日が続いており、地元客や観光客も連休時には少しずつ動き出している。しかし、12～1月は忘年会や新年会の時期であるものの、企業側が感染の再拡大を危惧して、大人数での飲み会を控えて予約がほとんどない。

□	高級レストラン（経営者）	・先は見通せないが、新型コロナウイルスの感染が落ち着いており、景気が少し良くなっていく期待はあるものの、新型コロナウイルス新変異株の報道や第6波の心配がある。新型コロナウイルスの新規感染者数がなく、少しでも落ち着くことを期待している。
□	スナック（経営者）	・これから忘年会の時期に入るが、忘年会を控える企業も多く、例年どおりの人出は期待できない。また、新型コロナウイルス新変異株も年末の外出を抑制させる可能性が高い。今月並みで推移していくことを期待している。
□	観光型ホテル（専務）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、年明けにGo To Travelキャンペーンが再開されることで旅行の動きが増え、団体旅行の再開に期待している。
□	通信会社（企画担当）	・やや好調な状況が続いていく。
□	通信会社（統括者）	・新規購入や機種取替えのための来店予約制が定着しており、故障等の緊急的な来店はあるが、全体的には来客数は低迷している。来店を促すような施策を計画的に実施することにより、来客数の増加を図っている。
□	観光名所（従業員）	・新型コロナウイルス新変異株の感染が海外で拡大しており、国内で症例があった場合の影響が不透明で、懸念される。
□	ゴルフ場（営業）	・今まで新型コロナウイルスで抑制されていた状況が解放され、一時的に来場者数が増加しているだけであり、来年には落ち着く。
□	理容室（経営者）	・12月の理美容業は、通常は景気が良くなる月であるが、今年は新型コロナウイルスの影響で全体的に収入が落ちている客がいるため期待は薄い。また、2～3か月先は冷え込みが強くなり、厳しい状況が継続する。
□	設計事務所（所長）	・今の悪い状態が3か月後も続いていく。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	・年明けは、青果物等の閑散期になるため、販売量が少なくなり、単価も下がらない厳しい状態になる。今月の景気は、夏場と比較するとよいが、前年と比較すると7～8割の売上であり、これから一層経営は厳しくなる。
▲	スーパー（店長）	・第6波は確実に発生すると考えているが、それ以上に物価上昇が更に加速し、多方面へ影響を及ぼし、更に消費が冷え込んでいくと危惧している。
▲	スーパー（統括者）	・新型コロナウイルスにより外出敬遠感もあるが、現在は人流は明らかに増加している。内食、中食比率の軽減傾向や競合店の影響も含め、新たな営業戦略を求められている。
▲	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の状況次第である。
▲	コンビニ（エリア担当・店長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着く1～2か月の間は、コンビニエンスストアの弁当や総菜の購入よりも、外食に流れていくと予想している。会社の昼休みの時間の来客数は、前年と同水準で推移しているが、夕方から夜にかけて来客数は伸び悩んでいる。
▲	衣料品専門店（店員）	・寒くなり、第6波が発生すると、客足は減少する。
▲	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス新変異株の動き次第であるが、第6波の発生があれば、景気が懸念される。
▲	家電量販店（店員）	・今月の景気も悪く、この状態が急に改善するとは考えにくい。現在の売上は底であるが、販売量や来客数が少なさから、一層悪くなる可能性がある。
▲	観光型ホテル（総務）	・年明け以降の予約状況は芳しくない。例年、宴会場で開催される新年会や名刺交換会等の慣例行事の開催見送りが相次いでいる。第6波の発生次第であるが、様子を見る空気が根強い。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	・Go Toキャンペーン再開の情報が始まってから、12～1月の客の買い控えが続いている。
▲	美容室（経営者）	・このまま良くなるとよいが、新型コロナウイルス新変異株の影響でかなり状況は悪くなる。
▲	設計事務所（代表）	・税制の変更に左右される。
×	設計事務所（所長）	・木材や鉄製品、その他の材料費や人件費の上昇はまだ続いていく。また、原油高が石油化学製品の価格上昇をもたらすと予想される。これからも生活必需品の値上げがあり、収入が頭打ちでは、生活防衛の資金保持が続いていく。この先も世界的な新型コロナウイルスの影響がまだ続いていく。
◎	—	—

動向 関連  (九州)	○	農林水産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、現状のような低い感染力であれば、年末年始の外食需要も期待できる。量販店も年末の特需が伸びてくる。問題は、新型コロナウイルスの感染再拡大と鳥インフルエンザの発生である。特に鳥インフルエンザは、工場生産や輸出業に大きく影響を与えるため、心配している。
	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・予約の受注量より判断すると景気は良くなっていく。
	○	化学工業（総務担当）	・事業所で扱っている部門の製品について、堅調な出荷となる見込みである。
	○	金属製品製造業（事業統括）	・部品納期のトラブルが解消されれば、景気は良くなる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・この業種は、半導体の動きにより左右されるため、新型コロナウイルス関係の調整も終わり、新型コロナウイルス発生前の良い状態に少しずつ戻っている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍で営業活動を強化した結果、仕事量が少しずつではあるが増えている。この先の受注拡大に期待している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・景気は良くなっているが、個別の業務では、部品調達の納期遅延や価格の高騰等もあり、収支のバランスを取るのが困難な状況である。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連客の見込みから、増産になる予測である。
	○	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・本年度上期の非稼働分の生産ばん回が計画されており、繁忙な時期が続く見通しである。
	○	金融業（営業担当）	・年末年始に向かい、消費者の購買意欲は一定の水準までは回復するが、飲食に関してはまだ自粛の心理がある。若干は良くなっているものの、新型コロナウイルス新変異株の流行が懸念されているため大きく改善はせず、経営者は警戒している。
	○	金融業（調査担当）	・年末年始に第6波を回避することができれば、経済活動は徐々に上昇基調になる。原油価格の動向も、生産活動や消費行動を左右する。
	○	広告代理店（従業員）	・ワクチン接種が進んできたことにより、日常の経済活動が戻り始めている。ただし、第6波次第である。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	・Webでの問合せや相談が増えており、人材投資を積極化する流れがある。
	○	経営コンサルタント（社員）	・前月から営業活動を再開したため、その成果に期待している。
	○	経営コンサルタント（社員）	・客の購買意欲は高まっているが、値上げが多くなり、大量購入には至っていない。
	□	家具製造業（従業員）	・業界的に、今後大きく好転するような動きや情報がみえていない。また、少ない受注量にもかかわらず材料費の高騰も影響しているため、今後更に状況を悪化させる可能性もあり、危惧している。
	□	輸送業（総務担当）	・半導体や建築資材、部品等が手に入らない。世界的に生産減少や物流が滞っている影響で、せつかくの機会を逃している産業もある。異常な原油価格の高騰も景気を押し下げる要因となっており、物価は上昇していても給与は上がらない等の様々な不安要素が多い。
	□	通信業（職員）	・官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、年度末までの状況に大きな変化は見込めない。
	□	通信業（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が一段落しているものの、根本的な要因が解消されていない。
	□	金融業（従業員）	・公共工事が高水準で推移しており、住宅投資も持ち直してきている。また、家電販売、百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアの売上も増加傾向を示している。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数は大幅に減少したものの、感染拡大の懸念もあることから飲食店や旅行、観光関連業者では期待されたほどの盛り上がりはみられない。
□	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルス新変異株が、どの程度の影響があるか注視が必要な状況である。国内の新規感染者数の状況と、海外での感染拡大が更に広がるようであれば、輸出や海外からの供給に頼っている業種では低迷につながる。	
□	不動産業（従業員）	・オフィス部門の入居率が横ばいに推移している。	

	□	広告代理店（役員）	・売上、営業収入の予想が伸びない。新型コロナウイルス新変異株の報道も加わり、深刻な状況を抜ける糸口が見つからない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・今月は景気は非常に上向きで良かったものの、新型コロナウイルス新変異株の状況次第である。このまま終息すれば、今後も景気は順調に回復する。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・徐々に景気回復の兆しはみえるが、急激な景気回復はみられない。新型コロナウイルスの第6波も危惧しているため、予断を許さない状況である。
	▲	食料品製造業（経営者）	・原料の伝染病の影響により、数量確保が難しく生産量、販売量共に減少していく。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・原材料や資材の高騰が悪影響を及ぼしている。
	▲	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・客より12～1月の生産が減少するとの報告を受けているが、原因が不明のため、どの程度減少するのか予測が付かない。
	▲	建設業（従業員）	・最近では受注に恵まれず苦勞をしている。人材を増やしたり、受注に向けての取組を行っているが、成果がなかなか出ていないため、引き続き努力していく。
	▲	建設業（社員）	・年度末に向けて景気の向上を図りたい時期であるが、その雰囲気は全くない。
	▲	輸送業（従業員）	・コンテナ不足は多少解消されつつも、北米を中心に料金が高騰していることもあり取扱増加が期待できない。輸入に関してもまだまだ低調であり、国内生産へシフトしている企業もあるため、通関など乙仲業務を行っている企業はまだまだ厳しい状況が続いている。
	▲	輸送業（従業員）	・受注は堅調に伸びているが、原料・容器・設備共に仕入れが遅れている。原料ではプロテイン原料、容器はアルミ製が供給不足で遅延となり、価格も高騰している。設備も半導体不足で投資が遅れている。需要はあるが、製造ができない状態が発生する。
	▲	金融業（営業）	・新型コロナウイルスの影響が懸念材料である。新型コロナウイルス新変異株、第6波の襲来が予想され、その場合の影響は大きい。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村は、12月の補正予算案を公表しているが、大半が新型コロナウイルスの3回目のワクチン接種や給付金関係であり、通常12月以降に発注される調査や計画策定支援等の委託業務の予算計上が行われていない。このため、今後委託業務を受注できる可能性が低くなり、景気が悪くなる。
	×	繊維工業（営業担当）	・工賃交渉を続けていくが、上がらなかった場合は非常に苦しくなる。パート従業員は賃金が上がったため、逆に労働時間を短くしなければならず、対策を講じなければいけない。
雇用 関連 (九州)	◎	人材派遣会社（社員）	・派遣社員の賃金が上昇傾向であることから、より好待遇の求人への転職が進んでいる。
	◎	求人情報誌制作会社（編集者）	・景気自体は悪化の傾向にあるので、判断しにくい。
	◎	職業安定所（職員）	・求人の動きが、令和元年度と同等の水準まで持ち直している。
	○	人材派遣会社（社員）	・企業の出張も増加し、飲食店等も客が多くなっており、少しずつではあるが人の動向が増加している。お歳暮や通常販売用で、新規の食品製造会社とも契約ができた。既存の客も年末年始に関しては通常どおりの人数で注文を受けている状況である。
	○	人材派遣会社（社員）	・このまま新型コロナウイルスが落ち着くと、景気は回復する。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・現在のような感染状況が続けば、用心しつつも活動量は増えていく。旅行等での移動や消費、飲食等もそれに比例して好転する。
	○	職業安定所（職員）	・10月の新規求人数は、4月以降最高数値となっている。11月は、4～10月までの平均的数値でとどまりそうではあるものの、前年と比較した場合、大きく数値は上回る見込みである。新型コロナウイルスの影響を受けた企業からの雇用調整助成金の相談や受付件数等は、10月の82件から大幅減少の50件程度と見込まれる。要因としては、給油時のガソリンの値上げがある。

○	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いていることで、観光業の回復が見込まれ、さらに、西九州新幹線開業における新規店舗開店による求人数の増加も見込まれる。
□	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス関連の業務委託等の動きはあるが、全体的な景気の上向き感はない。状況次第では、求職者や企業側の求人の動きもなくなる。
□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・景気は回復傾向にあり、今以上の順調な回復は期待しづらい。新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いているが、第6波が発生し、緊急事態宣言が発出されると以前の状況に戻ることも考えられるが、ワクチン接種も進んでいるため、状況は変わらないが、第6波次第である。
□	職業安定所（職員）	・企業からの求人数もこの1か月間で増加しているが、新型コロナウイルスの感染状況次第では、実際に雇用するか分からないという企業もあり、景気の好転には、引き続きブレーキを踏んだままである。
□	民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルス感染が拡大する前の状態ほどではないが、現状でかなり改善してきたため、これ以上良くなるにはインバウンド関係の業種やサービス業の回復が必要である。それまでは現状が続いていく。
□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染状況が改善され、経済活動への制限が緩和されている。油断ができない状況はまだしばらく続くが、多くの企業において2023年卒業の採用者数は今年と同程度になる。また、オンラインによるインターンシップの実施は前年度よりも増えており、企業の採用意欲は徐々に上向いていく。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・会合や集会が再開しているが、新型コロナウイルスの感染が、再度感染拡大する懸念は、多くの人がもっている。特に、年末年始の企業単位の忘年会、新年会は中止の案内が多い。
×	—	—